あるコミュニティカレッジの留学生獲得戦略

――『高等教育クロニクル』の記事より――

宮　田　　実（訳）

“Community College Draws Foreign Students by Serving as a Gateway to Universities”

―― An Article from *The Chronicle of Higher Education* ――

Translated by MIYATA Minoru

グリーンリバーコミュニティカレッジ

アメリカのコミュニティカレッジが海外の留学フェアに参加しても留学希望者の反応があまり良くない。なぜなら,「コミュニティカレッジ」は海外では認知度が低いからである。準学士という学位を正式な資格として認めない国が多くあり，また，コミュニティカレッジを単なる職業訓練学校だと思っている国もある。その結果，留学生を増やしたいアメリカのコミュニティカレッジは留学フェアで苦戦を強いられることになる。

そのような状況のなかで例外的な大学がある。それはワシントン州のシアトル近郊にあるグリーンリバーコミュニティカレッジ(以下，GRCCと表記する)である。同大学の留学生数は1993年は200人であったが，約20年後の現在1,200人を超える。この数字は学生総数の10％を占める。留学生はインドネシア，台湾，ベトナムなど40か国から来ている。

GRCCの成功の鍵は，留学生を全米トップの４年制大学の人気学部へ編入学させることにある。きめの細かい個別指導と長年にわたって築き上げてきた４年制大学との信頼関係によって，同大学はほとんどすべての留学生を４年制大学の経営学部や工学部など人気のある学部へ送り出している。編入学制度によって留学生増加を支援する団体であるコミュ

平成23年10月31日　原稿受理
大阪産業大学　教養部

ニティカレッジグローバル化促進センターのソラキアン部長はGRCCの戦略を高く評価して，次のように述べる。「留学生獲得に成功しているコミュニティカレッジにはある共通点があります。それは，多くの４年制大学と編入学協定を結んでいるということです。」

ソラキアン氏によれば，留学生の増加という恩恵を受けているのはコミュニティカレッジだけではない。コミュニティカレッジからの編入留学生を受け入れる４年制大学にとって授業料を満額払ってくれる留学生の増加は経営の安定につながり，さらにキャンパスの国際化に貢献する。現在，２年制大学で準学士号を目指している留学生は68,500人以上にのぼり，４年制大学の海外での留学フェア費用の軽減に貢献しているのである。

資金が十分でなく，また高校の成績や英語力が十分高くないという理由で４年制大学に入学することができない留学生にとってコミュニティカレッジは学士号への新たな道を提供してくれる。カリフォルニア大学デイビス校の入学者選考部（留学生担当）部長であるレナード氏は「コミュニティカレッジは大学教育への橋渡しをしてくれる存在です」と言う。

ロス・ジェニングズ氏

GRCC国際交流部副部長のロス・ジェニングズ氏は，海外での留学フェアで相談相手が自校の良さをよく理解できない場合はこんな質問をする。「どの大学に行きたいのですか。現時点でその大学に入学できますか。」そして，「GRCCに来てくれたら将来その大学に入れますよ。」と言う。

GRCCを卒業後，留学生たちが編入学した大学としてパーデュー大学，ミシガン大学，オレゴン大学，南カリフォルニア大学などがある。レベルの高いビジネススクールを持つインディアナ大学ブルーミントン校はGRCCの留学生に最も人気のある大学の一つである。GRCCはカリフォルニア大学ロサンゼルス校へカリフォルニア州を除く州のどのコミュニティカレッジよりも多くの編入学生を送り出している。

ジェニングズ氏はこれまで20年にわたって編入学の秘策を模索してきたがその道のりは平坦なものではなかった。彼は他の大学と対等に競争できない海外での留学フェアに依存しなかった。その代り，彼は中国をはじめとする国々の高校や大学とのパイプを築いた。特に経営学や児童教育学の分野に重点を置いた。これらの分野は優秀な留学希望者に人気があるのである。海外の大学で１年間学習した学生は２年目をGRCCで学べば英語力に磨きをかけ，アメリカ式の教授法に適応できるようになる。中には高校の授業を受けながらGRCCで単位を取得する学生もいる。ジェニングズ氏は他の留学あっせん業者からの学生も受け入れるが，その学生の成績が振るわなければすぐにその業者の利用を停止する。実

際，彼があっせんした留学生はGRCCのアメリカ人学生よりも成績が良く，昨年の彼らのGPAは3.51という高い水準であった。

成功の秘訣

GRCCへ来る留学生は第１週目から留学生アドバイザーから将来の専攻分野や編入学できそうな大学について助言を受ける。そして確実に編入学できるよう２年間の綿密な履修計画を立てる。

周到な履修計画のおかげでガブリエラ・レスターリさんはGRCCから第１志望のカリフォルニア大学バークレー校に編入学できた時いたって冷静だった。「編入学の単位として認められるクラスとそうでないクラスがはっきりわかっていたので効率的に単位を取得することができました。」とインドネシア出身で23歳のレスターリさんは言う。彼女の専攻は化学工学で現在，サウジアラビアのキングアブデュラ科学技術大学大学院で修士課程を終えようとしている。ジェニングズ氏はGRCCの編入学戦略を「逆行分析」と呼んでいる。即ち，留学生が入学したい大学の編入学制度をよく研究し，的確な準備をすることである。

レスターリさんはバークレー校への初めての編入学生であったが，他の標準的なレベルの大学の場合でもジェニングズ氏たちはその大学の入学選考担当者，教員さらに卒業生と話をしたりして，周到な準備をする。また，編入学条件の変更などの最新情報を逃さないようにしている。

コミュニティカレッジは以前から自州の州立４年制大学と編入学協定を結んでいる。中には近隣の私立大学とも協定しているところもある。しかし，留学生については状況がやや異なるようである。アメリカ人学生と違って留学生のなかには州内の大学に行こうとしない者もいる。州内の大学に行けば学費も寮費も低く抑えられるのにもかかわらずである。ただし，ワシントン大学（州立）はGRCCからの編入留学生を数多く受け入れている。ジェニングズ氏は全米の超一流大学への編入学を希望している留学生にその夢をかなえさせようとしているのである。

GRCCはもともと州外の大学とは編入学協定を結んでいなかった。しかし，留学生担当者たちは留学生に人気のある大学の編入学政策について入念に調べたのである。その結果，４年制大学の入学選考担当者たちはアメリカ北西部のこれまで無名だったコミュニティカレッジから優秀な留学生が入学してくるのに気付き始めた。インディアナ大学の元入学選考部長がシアトルを訪れた時，GRCCに立ち寄った。ジェニングズ氏はその時の元部長の次の発言をよく覚えている。「あなたたちの成功の秘訣は何なのですか」

現在ではジェニングズ氏は50校あまりの大学の入学選考部の責任者と懇意にしている。

彼は困ったときはいつでも電話をかけて相談する相手がいると言う。50校のうち10校以上としっかりとした協定を結んでおり，大学側はGRCCのどのプログラムの留学生を受け入れるかを教えてくれる。時には大学側から入学条件を満たす学生に対する入学許可を送付してくるケースもある。

カリフォルニア大学デイビス校のレナード氏はシアトル地域からの編入希望の留学生が増加しているのに気づき，GRCCとの連携強化を目指した。そして，GRCCや他のコミュニティカレッジのカウンセラーと打ち合わせをし，志願者をキャンパス見学に招待した。レナード氏は次のように述べる。「コミュニティカレッジからの編入学留学生が増えることは大学にとって大きなメリットがあります。なぜならこのような編入学生たちはアメリカの教育方法に慣れていますし，また留学生を獲得するために外国に出かけるための予算は年々厳しくなっていますから。」

不況の波を乗り越えて

シーリア・チェンさんは北京の大学の１年目を終えてGRCCに入学した。彼女はアメリカ留学を夢見ていたが，ほとんど英語が話せなかったと言う。しかし，彼女はGRCCでの少人数クラスを通して英語に自信が持てるようになり，批判的思考や討論に重点を置くアメリカ流の教育方法にも慣れた。アドバイザーが専攻を決めるのを手伝い，成績だけでなく課外活動やボランティア活動が重要だということを教えてくれた。現在インディアナ大学４年生のチェンさんはGRCCで数学の個別指導をしたり留学生クラブの会長も務めた。彼女はそのような経験が編入学に役立ったと言う。

このようなきめの細かい指導を実行するのは容易なことではない。コミュニティカレッジはキャンパスの国際化と歳入増を図るためにより多くの留学生獲得に乗り出している。しかし，アメリカで準学士をめざす留学生の数は最新のデータ（2009 ～ 2010年度）によれば減少している。大きな要因として地球規模の不況が考えられる。

子供を２年制大学に通わせる家族はたいてい海外留学させるような余裕はない。また，コミュニティカレッジにおいては留学生獲得のための予算は減額され続けている。景気がいい時でもコミュニティカレッジに留学しようとする学生にとってビザの取得は難しい。領事館のビザ担当者が，彼らがアメリカから帰ってこないのではないかと懸念するからである。

ジェニングズ氏は，将来４年制大学に編入学する意思を表明すればビザ取得が容易になると考える。領事館のビザ担当者に，彼らが留学を真剣に考えているという印象を与えるからである。

ジェニングズ氏はGRCCの理事からの強力な支援を受けているという点で幸運である。理事は留学生が大学に対していかに多くの恩恵をもたらしているかを十分認識している。特に財政面では同州在住のアメリカ人学生の３倍の学費を払ってくれるのである。そのおかげで留学生を勧誘し，アドバイスを与え，さらに英語集中プログラムの講師をしている35人もの国際交流部のスタッフを雇用できているのである。ジェニングズ氏は次のように述べる。「私たちは留学生のためにあらゆることをしています。なぜなら，彼らの成功が私たちの成功につながるからです。」

（2011年９月16日号）

（Copyright 2011. *The Chronicle of Higher Education.* Translated and reprinted with permission.）

訳者あとがき

本稿はアメリカで発行されている高等教育に関する週刊専門新聞『高等教育クロニクル』に掲載された記事の翻訳である。筆者はカーリーン・フィッシャー氏である。

今回のテーマはコミュニティカレッジにおける留学生獲得戦略である。特に，ワシントン州シアトル近郊にあるグリーンリバーコミュニティカレッジに焦点が当てられている。同大学はワシントン州のみならず全米の有名な大学への編入学で大きな成果を上げている。留学生担当のジェニングズ氏の手腕には驚かされる。世界的な不況の現在，生き残りをかけた大胆な挑戦を知って勇気づけられるコミュニティカレッジも多いことであろう。